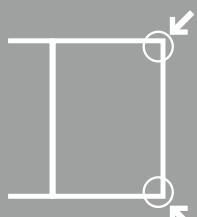
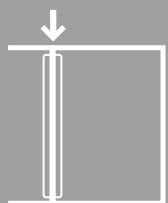


四隅 クリックでページ移動(全8ページ)



中央 クリックで全画面表示(再クリックで標準モードに復帰)

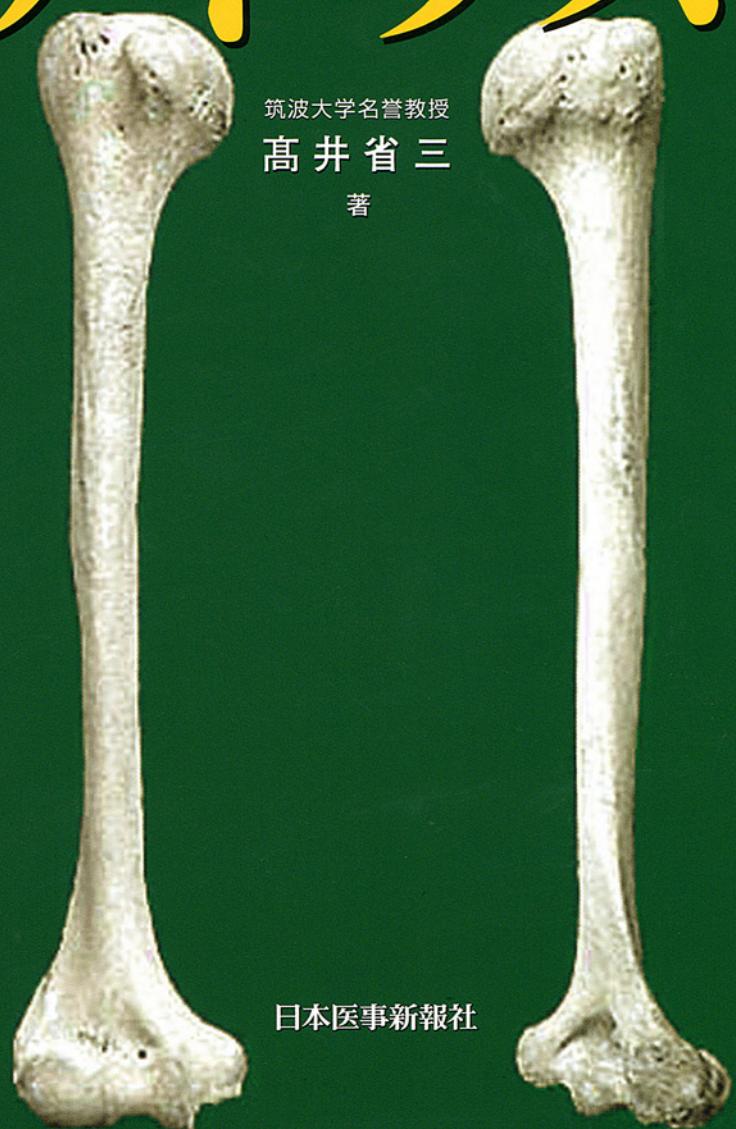


骨学実習 アトラス

筑波大学名誉教授

高井省三

著



* OS・ブラウザのバージョン等により機能が制限される場合があります。

日本医事新報社

とうがいかん 1-2. 頭蓋冠 calvaria の内面

縫合の癒合・消失状態を、外面と内面で比べてみよう。

じょうしじょうどうこう

◆ 上矢状洞溝 groove for superior sagittal sinus (16)

上矢状静脈洞が収まる溝。上矢状静脈洞は脳硬膜内を走る静脈で、硬膜静脈洞と呼ばれるものの1つである(95ページ参照)。

まくかりゅうしようか

◆ クモ膜顆粒小窩 granular foveolae (17)

クモ膜顆粒を収める小さなくぼみ。クモ膜顆粒は、上矢状静脈洞内に
クモ膜下腔が絨毛状に突出したもので、髄液圧の減少に働く。

とうちょうこう

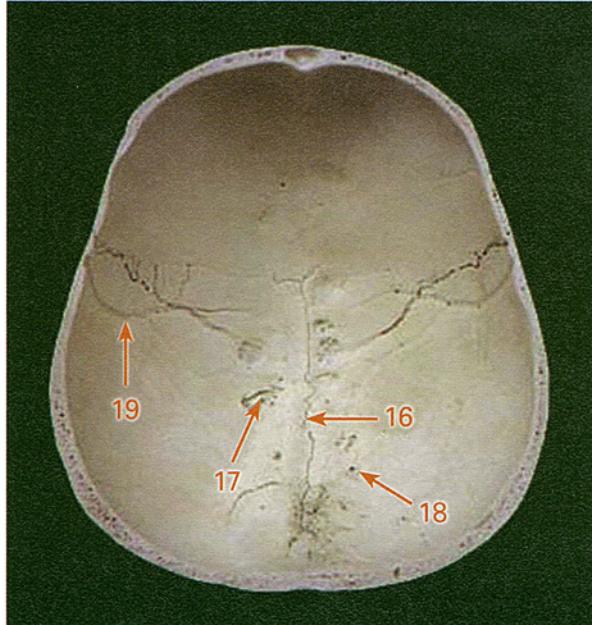
◆ 頭頂孔 parietal foramen (18)

頭頂導出静脈が通る。この静脈は上矢状静脈洞と頭皮の静脈を結ぶ。

どうみやくこう

◆ 動脈溝 arterial grooves (19)

脳硬膜に分布する中硬膜動脈が走る。この溝は棘孔に続く。棘孔は中硬膜動脈と下顎神經硬膜枝の通路である。



ないとうがいてい 1-3. 内頭蓋底 internal surface of cranial base

ぜんとうがいか

◆ 前頭蓋窩 anterior cranial fossa (20-1)

ちゅう

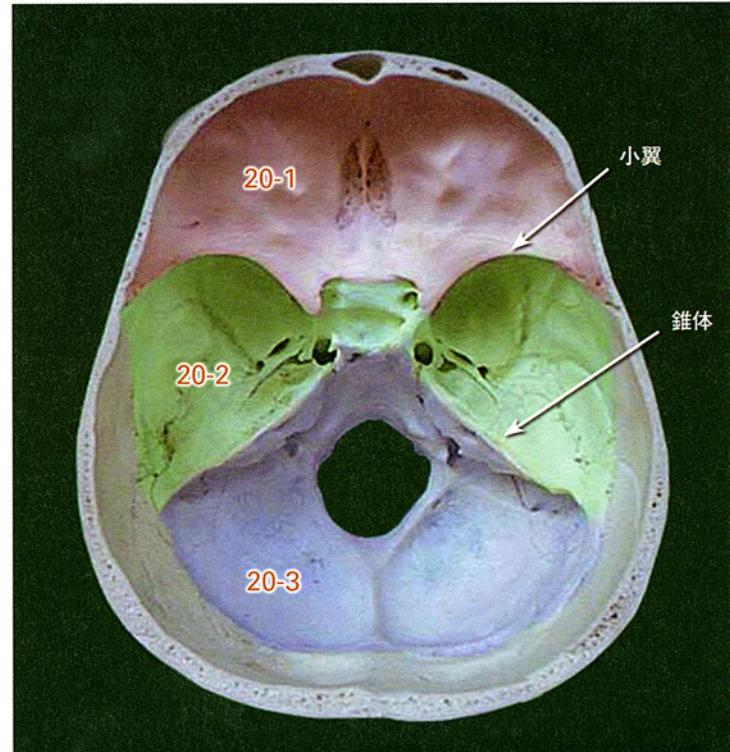
◆ 中頭蓋窩 middle cranial fossa (20-2)

こう

◆ 後頭蓋窩 posterior cranial fossa (20-3)

頭蓋底は2本の横に走る隆起(蝶形骨小翼と側頭骨錐体)によって前・中・後頭蓋窩に分かれる。これらは前から後にいくにつれて階段状に低くなっていく。

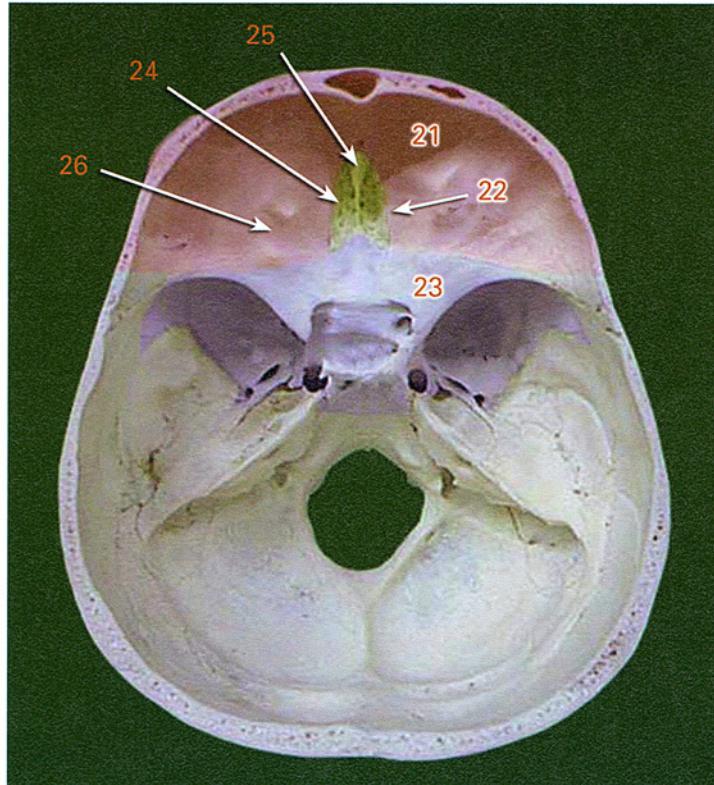
それぞれの頭蓋窩は脳の下半を収めるくぼみとなっている。前頭蓋窩は大脳の前頭葉、中頭蓋窩は側頭葉を、後頭蓋窓は小脳、橋、延髄を収める。



ぜんとうがい か

前頭蓋窩 anterior cranial fossa

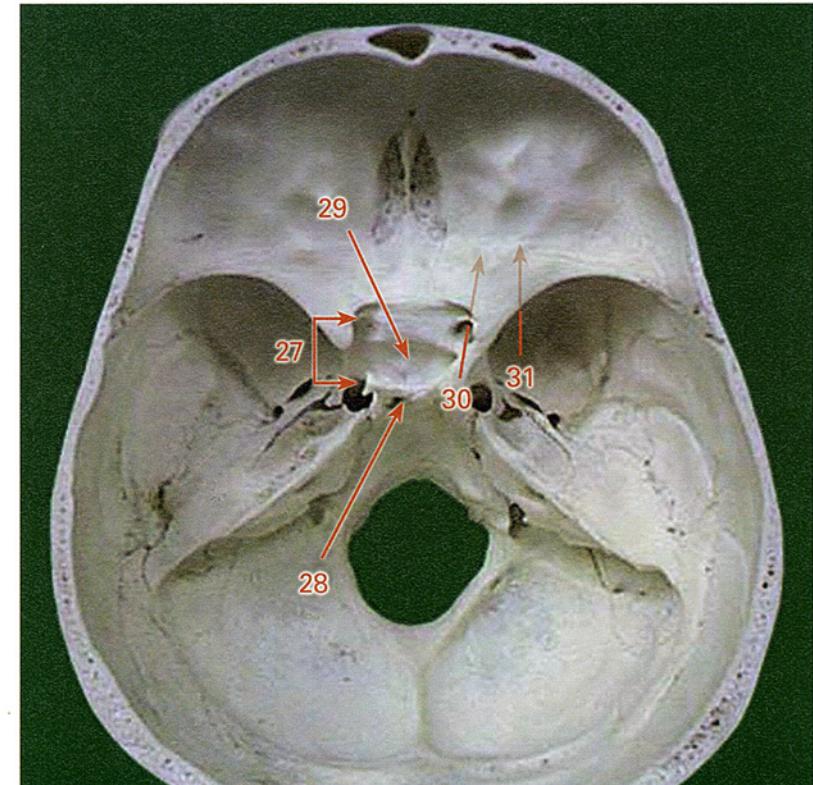
- ぜんとうこつ
◆ 前頭骨 frontal bone (21), 篩骨 ethmoidal bone (22), 蝶形骨 sphenoidal bone (23) を同定しよう。
- し ばん
◆ 篩板 cribriform plate (24) 「篩」はふるいの意で、多数の小孔があいている。篩板の上には嗅球が乗る。嗅球からの嗅神経(第Ⅰ脳神経)と、前篩骨動脈、前篩骨神経が篩板の小孔を通って鼻腔に抜ける。
- けいかん
◆ 鷄冠 crista galli (25)
かま
大脑鍼(脳硬膜の一部)が付く。「鷄冠」はトサカの意。
- しあっこん
◆ 指圧痕 impressions of cerebral gyri (26) 大脳半球表面の大脳回が対応する。一方、大脳溝に対応するのが脳隆起である。



ちゅうとうがい か

中頭蓋窩 middle cranial fossa

- ちょうけいこつ
◆ 蝶形骨 sphenoidal bone, 側頭骨 temporal bone (44) を同定しよう。
- ぐら
◆ トルコ鞍 sella turcica (27), 鞍背 dorsum sellae (28)
- かすいたいか
◆ 下垂体窩 hypophysial fossa (29) トルコ鞍の中央のくぼみに下垂体が収まる。大きさは指先の半分くらい。
- じしんけいかん
◆ 視神經管 optic canal (30) 視神經(第Ⅱ脳神経)、眼動脈(内頸動脈の枝)がここを通って眼窩へ至る。
- じょうがんかれつ
◆ 上眼窩裂 superior orbital fissure (31) 動眼神経(第Ⅲ脳神経)、滑車神経(第Ⅳ脳神経)、外転神経(第Ⅵ脳神経)、眼神経(三叉神経(第Ⅴ脳神経)の第1枝)、上眼静脈が眼窩へ抜ける。



- せいえんこう
◆ 正円孔 foramen rotundum (32) 上顎神経(三叉神経の第2枝)が通り、翼口蓋窩へ抜ける。

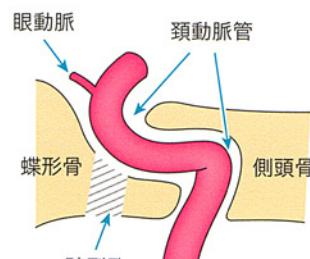
- けいどうみやくかん
◆ 頸動脈管 carotid canal (33)

内頸動脈とそれにまつわる内頸動脈神経叢(交感神経)が通る。管は蝸牛の下で急に向きを変えて外側後方に屈曲し、鼓室の内側前方を垂直に下行して外頭蓋底に開口する。

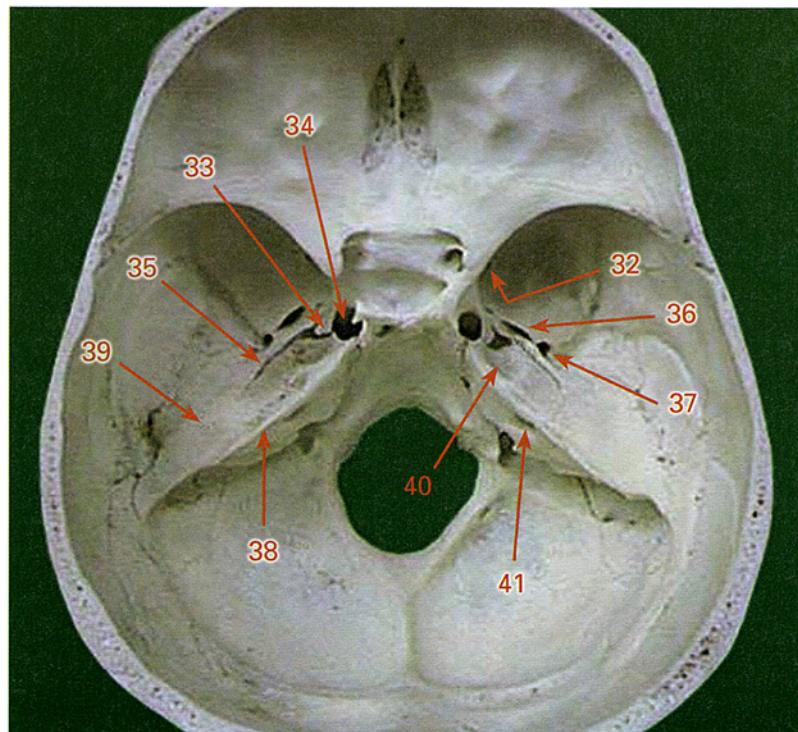
- はれつけう
◆ 破裂孔 foramen lacerum (34)

蝶形骨、側頭骨錐体尖、後頭骨底部が囲む空所。孔の底部は、生体では線維軟骨が塞いでいる。大錐体神経(顔面神経からの副交感神経;涙腺へ行く)、深錐体神経(内頸動脈神経叢の枝)が通る。

- だいすいたいしんけいこう
◆ 大錐体神経溝 groove for greater petrosal nerve (35)



右内頸動脈の内側面



- らんえんこう
◆ 卵円孔 foramen ovale (36) 下顎神経(三叉神経の第3枝)が通り、外頭蓋底(側頭下窩)へ抜ける。

- きょくこう
◆ 楊孔 foramen spinosum (37) 中硬膜動・静脈と下顎神経硬膜枝が通る。

- すいたい
◆ 錐体 pyramis (38) 側頭骨岩様部は錐体と乳突部からなる。錐体は、破裂孔を尖端とする四角錐と考えればよい。その内部には中耳(鼓室)と内耳がある。

- きゅうじょうりゅうき
◆ 弓状隆起 arcuate eminence (39)

前半規管による高まり。錐体前面にある。

- さんさしんけいあっこん
◆ 三叉神経圧痕 trigeminal impression (40)

錐体尖の近くにある浅いくぼみで、三叉神経節(半月神経節、ガッセル神経節)

を乗せる。この神経節は知覚根がつくる神経節で、三叉神経はこの先で3枝に分かれれる。

- ないじこう
◆ 内耳孔 internal acoustic opening (41) 錐体後面にある内耳道の入口

- ないじどう
◆ 内耳道 internal acoustic meatus 次の神経・血管が通る。

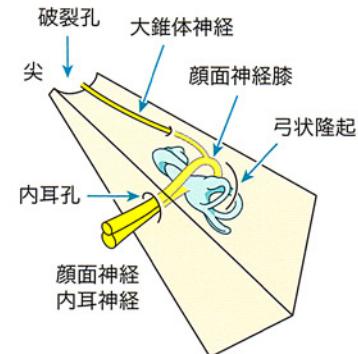
①顔面神経(第VII脳神経)：内耳道底で顔面神経管に入り、すぐに直角に後外側に曲がる。この部が顔面神経膝である。ついで、アーチを描いて後下方へ走り、茎乳突孔を通って外頭蓋底に出る。膝神経節から出た大錐体神経は、大錐体神経溝(35)を前に走り、破裂孔を通って外頭蓋底に至る。

②内耳神経(第VIII脳神経)：前庭神経と蝸牛神経に分かれて、平衡器と聴覚器に分布する。

③迷路動・静脈

- ぜんていすいかんがいこう
◆ 前庭水管外口 external opening of vestibular aqueduct

前庭水管は、内耳の内リンパ管を通過させる。内耳の前庭から始まり、後上方に走り錐体後面に開口する。内リンパ管はこの外口を出て内リンパ囊をつくって終わる。



右の錐体を上から見る

こうとうがい か
後頭蓋窩 posterior cranial fossa

こうとうこつ
◆ 後頭骨 occipital bone (42), 蝶形骨 sphenoidal bone (43), 側頭骨 temporal bone (44) を同定しよう。

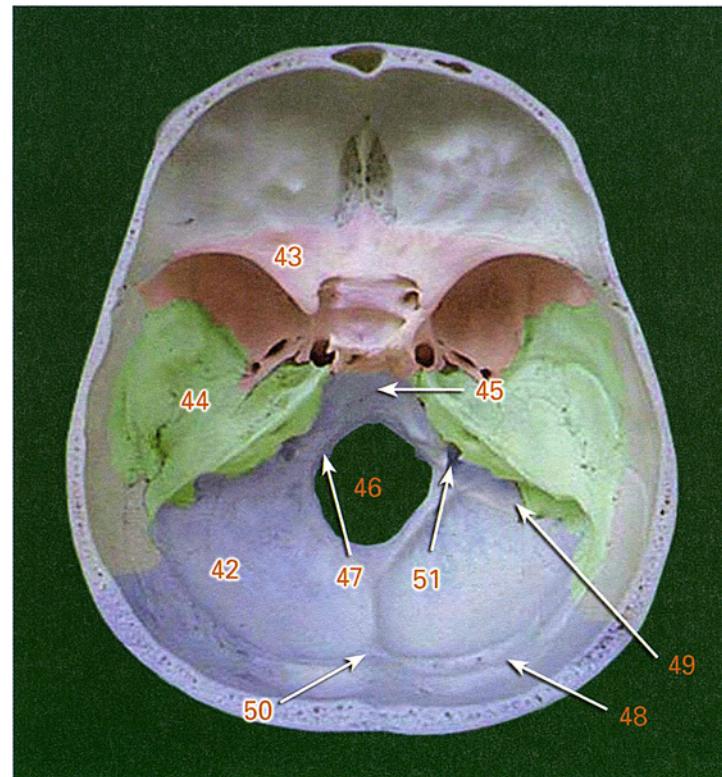
しゃだい
◆ 斜台 clivus (45) 鞍背から大孔までの傾斜部。橋と延髄の上部が乗る。

だい こうとう こう
◆ 大 [後頭] 孔 foramen magnum (46)

孔の大きさは個体差があるが、指2本が通るくらい。前後に長い卵形の孔である。延髄の下部、副神経(第XII脳神経)の脊髄根、椎骨動・静脈が通る。

ぜっかしんけいかん
◆ 舌下神經管 hypoglossal canal (47)

大孔と頸靜脈孔の間にあり、舌下神経(第XII脳神経)が通る。



おうどうこう

◆ 横洞溝 groove for transverse sinus (48), S状洞溝 groove for sigmoid sinus (49)

内後頭隆起 (50) のところで上矢状靜脈洞と横靜脈洞がT字型に合流する。横靜脈洞はS状靜脈洞に続き、内頸靜脈に注ぐ。これらの硬膜靜脈洞が接する溝である。

けいじょうみやくこう
◆ 頸 静 脈 孔 jugular foramen (51)

S状洞溝の終点で、側頭骨と後頭骨の間にできる孔。両骨の切れ込み(頸靜脈切痕)で構成され、孔内突起によって前後に不完全に二分される。内頸靜脈は後部(大きい)を通り、前部(小さい)は舌咽神経、迷走神経、副神経、下錐体靜脈洞が通る。

